

基調スピーチ

北米におけるロータリー研究会

RI 会長エレクト・エイド 元 RI 理事 G.Kenneth Morgan (チャペルヒル)

ここにいらっしゃる日本の皆さま、今朝ほど、皆さまとご一緒することができ、ありがとうございます。そして、特に理事のお二人に感謝したいと思います。

また、元理事の方々、私と同期の理事を務めてくださった方にも感謝しております。そして、残念ながら、私はスピーチが終わったら台湾に行かなければなりません。ですから、私にとっても、このようなチャンスを与えていただき、とても感謝しております。

2013～2014年度のゾーン1, 2, 3の研究会にお招きいただきありがとうございます。私の89歳の母親が、私が日本でスピーチをするということを聞いて、非常にびっくりしていました。私の英語を、皆さまが果たして分かるかどうかということを、ちょっと懸念したわけです。

私と比べますと、皆さまの英語のほうが、私の日本語よりずっとお上手であるということは、もうこれは確実なことです。そして、特にここで感謝したいのは、小沢管理委員が私を案内して、いろいろ素晴らしい日本を見せてくださいました。

また、私のエイドを務めていただいている渡辺ご夫妻が、ここ数日間、私のためにお手伝いしてくださったことにも感謝いたします。

過去20年間、私は国際ロータリーのいろいろな委員会の委員などを務めることができ、そして多くの素晴らしい日本のロータリアンにお会いすることができました。そして、そこで募った友情というものが、本当にロータリアンとしてよかったなと思われる、一つの要因となっております。またそれによって、私も今日、ここ日本に訪れることができたわけです。

ここで、皆さまにお話ししたいのは、北米における研究会の現状です。通常は、研究会には、パストガバナーの方もお招きされますが、必ずしも全員が出席しているというものではありません。

ロータリー世界においては、19の研究会が今年開催されます。そのうち六つはアメリカで開催さ



れるということです。ゾーン24、ゾーン32はアメリカとカナダの両国の地区を含む研究会となっています。

そして、アメリカの八つの州に、プラス25カ国からなる二つの地区が含まれる、これはカリブ海の諸国ですが、そのようなところからなっている研究会もあります。ですから、そのような意味で、その研究会は非常に国際性豊かなものとなっております。

日本の研究会は、通常、国際ロータリーの会長が出席されております。アメリカの研究会には、会長エレクトが国際ロータリーの公式な代表として、出席していただいております。会長がどこの研究会にいらっしゃるかということは、まず会長がだいたい半分ぐらいの研究会をお選びになって、そしてその残りを会長エレクトに行っていただくこととなっております。そして、伝統的には、会長のほうが必ず日本の研究会に出席されることになっています。

私のゾーンですが、これは通常、会長エレクトがいらっしゃるということになっております。

アメリカにおいて、また日本においても、理事エレクトの一番最初の責任というものが、研究会をどこで開催するか、その場所を選ぶということです。そして、日本ではこのホテルでほとんど開催されると伺っております。

アメリカでは、会場や開催地というものは、毎

年、違っております。通常は、大きなリゾートホテルを使っております。そして、また、リゾートホテルというのは、かなり前から予約を受け付けておりますので、理事エレクトはかなり早いうちから、場所というものを確保しなければならないはめになっている様子です。

また、有名なリゾートホテルを使うということで、経費もちろん高くなるわけです。ですから、登録費なども高くなります。

そして、理事は研究会の実行委員会、実行委員長を任命するのも日本と同じです。だいたい50人ぐらいのバスターがこの委員会の委員になったり、または委員長になったりしています。これも、日本でも同じようなことが行われていると伺っております。そのバスターの方たちが、やはりこの研究会の成功に非常に関わっているということです。

ただ、違うものは、アメリカでは通常、週末を挟んで、この研究会が行われているということです。皆さんに、だいたい木曜日にいらしていただいて、金・土・日という期日で研究会が行われます。そして、その前にGETSが行われます。

また、アメリカではほとんどのゾーンが特別な会合を1日間、研究会の前に開催します。これは、現バスターを対象とした会合です。また、バスターノミニエの方たちのための会合も、研究会が公式に始まる前に開催されます。

出席者はだいたい400人ぐらい。これは配偶者を含めて420人ぐらいの出席者です。もちろん年度によっては違います。

今回の日本の研究会に先立って、私は数カ所の、アメリカにおける研究会の議題内容をちょっと見ることができました。財団にかける時間、そしてまた会員増強にかける時間というものが、だいたい非常に大きな比重を占めているということです。

アメリカにおいては、多くの研究会はワークショップとか、または討論グループというものが分科会として開催されます。これは、違うトピックの分科会というもので、自分が出席したい、関心のあるトピックを選んで、その分科会に出席していただいております。

日本では、皆さんが一堂に集まっていちゃいますが、アメリカではだいたい三つか四つぐらいの分科会が、同時に開催されるという方法を取

っております。

どのようなトピックが扱われているのかと申しますと、例えば、ロータリーの約束とか、ロータリーのストーリーをみんなに。ですから、ロータリーモーメントみたいなものですね。そして、もちろんポリオの撲滅。昨日は、ポリオの重要性というものがここでも語られました。

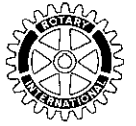
国連のミレニアム開発目標についてのトピックも、かなり人気を呼んでいます。この国連ミレニアム開発目標というようなものは、この六つの重点分野と非常に似通ったところがあるということは、皆さん、もうすでにご存じだと思います。

ワークショップのトピックを申し上げますと、例えば、若者の成長についてのトピックが多いわけです。ロータリーの活動で、自分たちの人生が変わったんだというようなお話だとか、または、地区がLinkedIn（リンクトイン）とか、フェイスブックとか、Eメールとか、特にコミュニケーションの上でこのようなソーシャルメディアを使って、若者たちと連結を取るといったようなトピックスというものが扱われております。

そこで、一番研究会でチャレンジがあるのは、経費の面ではないかと思えます。公費を抑えながらも、いい研究会を開催しなければなりません。また、ホテルの宿泊料というようなものが、だんだん高くなっている中で、どうすればこの経費を抑えることができるのかということ。ですから、出席者にあまり負担をかけないようにということが、一つの課題となっております。食費というようなものも、やはり年々と値上げされているので、これも一つの頭を悩ますところです。また、コーヒー・ブレイクです。お休みの時間のコーヒーも、非常にコストというものが加算されていくということで、非常に高くなるわけです。

アメリカにおいては、だいたい一律の出席登録費というものを徴集しております。1日出席するのか、または全期出席するのかということによって、登録費というようなものが違うわけです。食費とかそのようなものも含まれております。

そして、研究会では、その登録費の中ではなくて、食費は別徴収するということもあります。また、GETSに出席される人たちや、研究会の前の会議に出席された方たちは、またそれなりの登録費を払わなければならないということになりま



す。

バスターガバナーの方たちが出席される場合には、だいたい1,500ドルから2,000ドルぐらいの経費をかけて出席するということになります。ただし、これは飛行機代は入っておりませんので、皆さんは自家用車で運転していらっしゃる方が多いわけです。

アメリカの研究会のやり方を、今ちょっと簡単にご紹介しましたが、日本の研究会の似通ったところをちょっと理解していただけるかもしれませ

んし、そうしていただければと思います。もちろん皆さまに、アメリカの研究会にもぜひいらしていただきたいと思います。

皆さまが、同じ年度にいらっしゃるのではなくて、違う年度にいらして、また北アメリカの研究会を経験していただくのもよいかと思いますので、もし時間が合えば、ぜひご出席いただきたいと思っています。

ありがとうございました。